

▶ 整備基準抜粋

歩道等が交差点又は横断歩道において車道と接する部分、横断歩道橋の昇降口の部分その他注意を喚起する必要がある箇所及び公共交通機関の施設から視覚障害者の利用の多い施設へ通ずる歩道等には、必要に応じて視覚障害者誘導用ブロックを敷設すること。

▶ 目標となる基準抜粋

同上

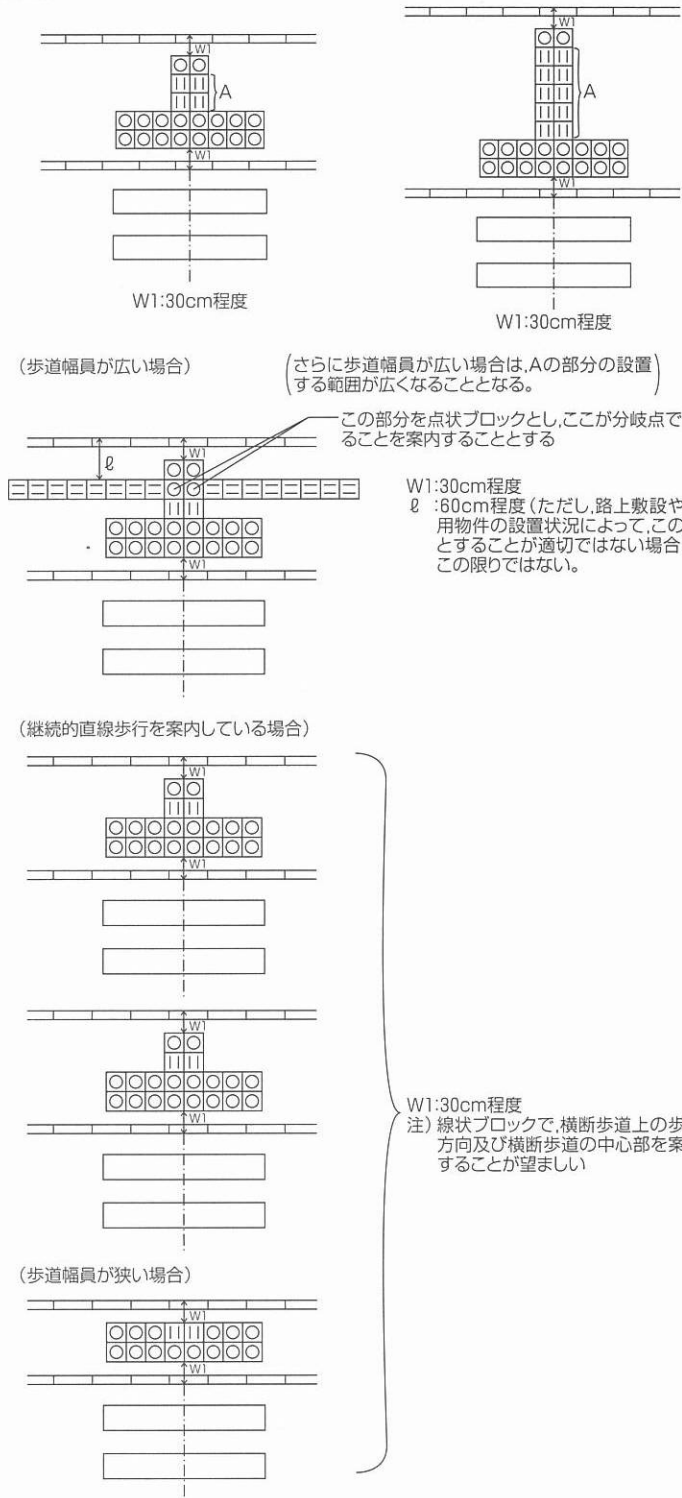
▶ 解説

建築物の視覚障害者利用円滑化経路の項参照

視覚障害者誘導用ブロックの整備例

視覚障害者誘導用ブロックの設置例（視覚障害者誘導用ブロック設置指針・同解説より）

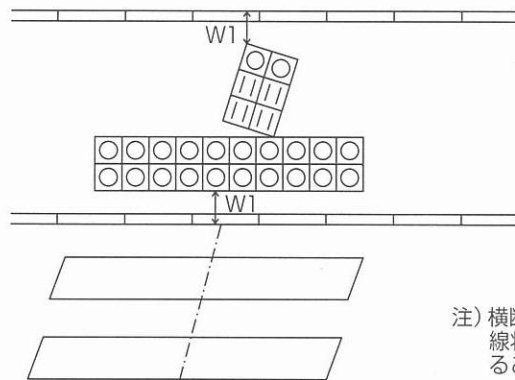
横断歩道口の設置例



- 凡例
- 印：整備基準に定めるもの
 - ◇印：目標となる基準に定めるもの
 - 無印：整備基準、目標となる基準には示されていない標準寸法例、及び配慮事項

視覚障害者誘導用ブロックの整備例

やむを得ず横断歩道が斜めの場合の設置例



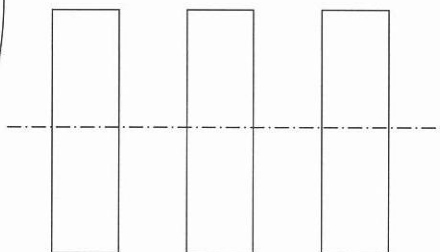
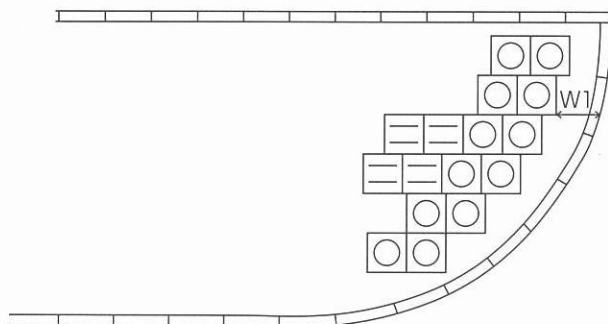
W1:30cm程度

注) 視覚障害者は、視覚障害者誘導用ブロック及び縁石の配列と横断歩道が垂直に交わるという認識により、横断歩道を横断するという意見があり、横断歩道が斜めの場合の対策を検討する必要がある。

注) 横断歩道の方向と線状ブロックの線状突起の方向とを同一方向にすることが望ましい

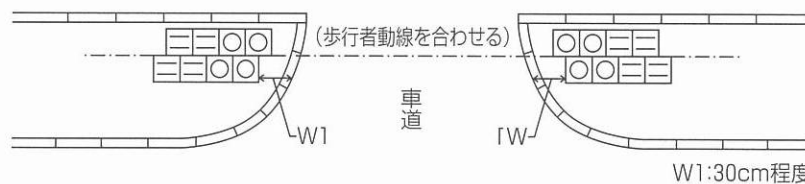
W1

歩行巻込部の設置例
(歩道幅員が広い場合)



W1:30cm程度

歩行巻込部の設置例
(歩道幅員が狭い場合)



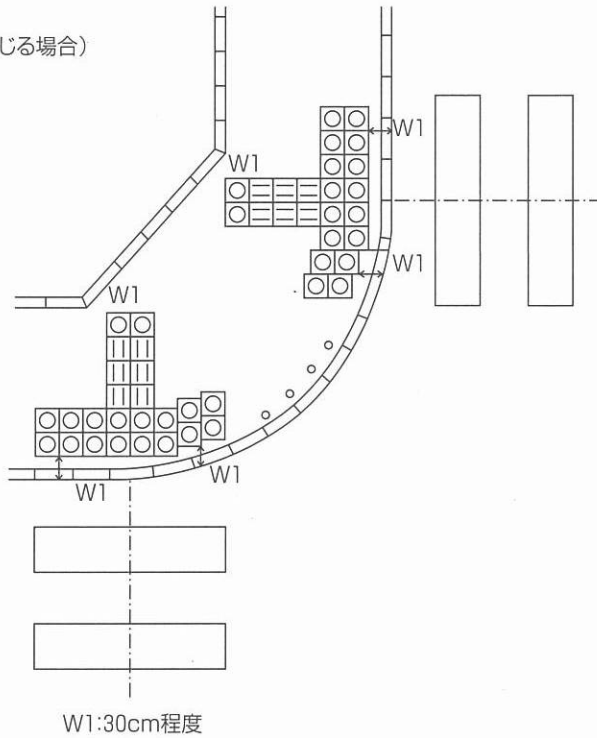
W1:30cm程度

注) 横断歩道の有無に関わらず歩道巻き込み部には視覚障害者誘導用ブロックを設置する

- 凡例
- 印：整備基準に定めるもの
 - ◇印：目標となる基準に定めるもの
 - 無印：整備基準、目標となる基準には示されていない標準寸法例、及び配慮事項

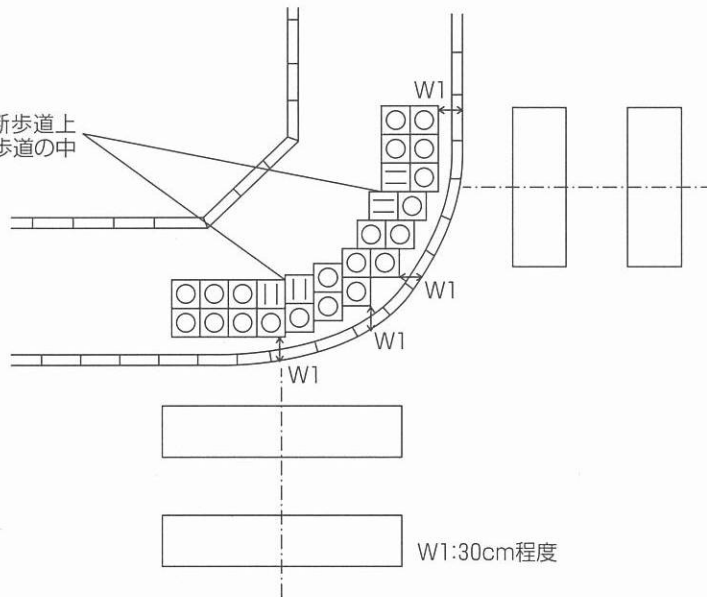
視覚障害者誘導用ブロックの整備例

(2方向に横断が生じる場合)



(横断歩道が近接している場合)

線状ブロックで、横断歩道上の歩行方向及び横断歩道の中心部を案内する

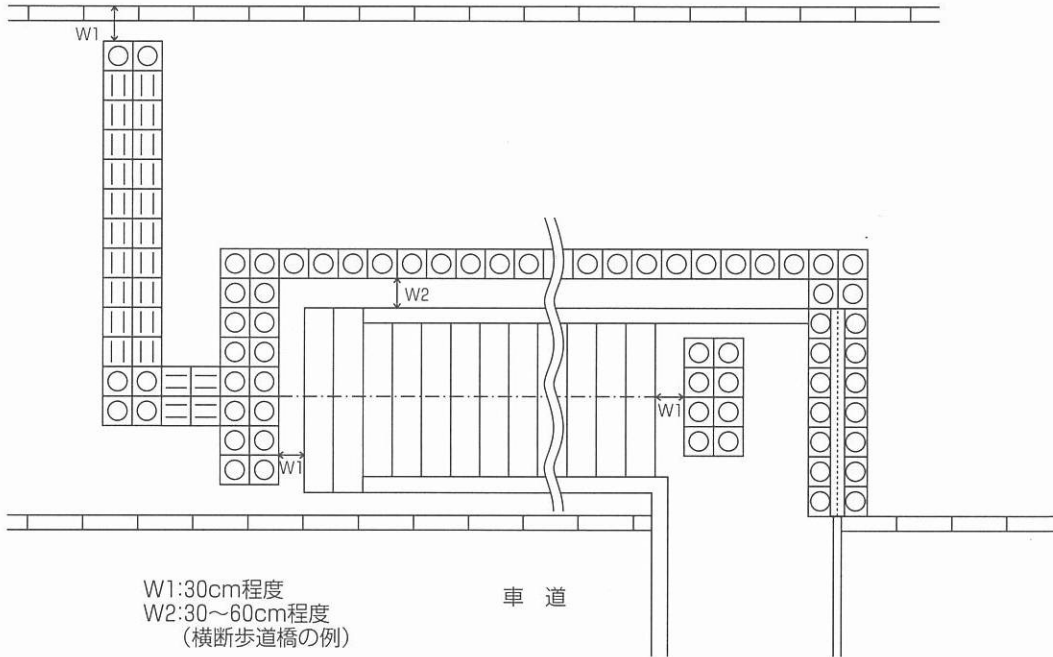


凡例

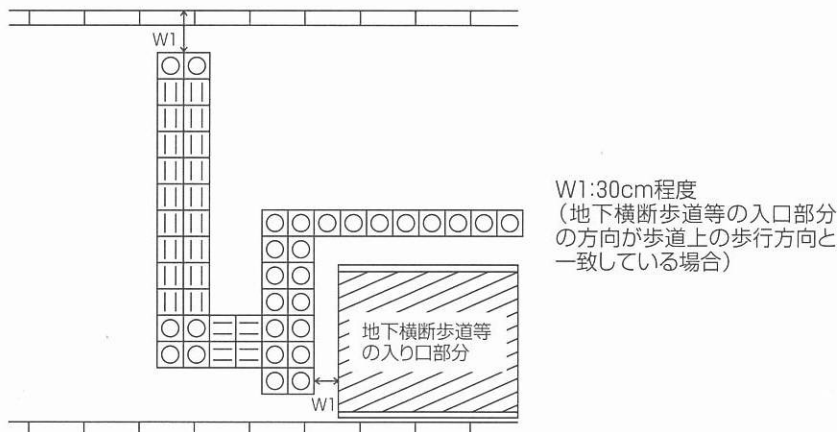
- 印：整備基準に定めるもの
- ◇印：目標となる基準に定めるもの
- 無印：整備基準、目標となる基準には示されていない標準寸法例、及び配慮事項

視覚障害者誘導用ブロックの整備例

(横断歩道の昇降口(階段部)の設置例)



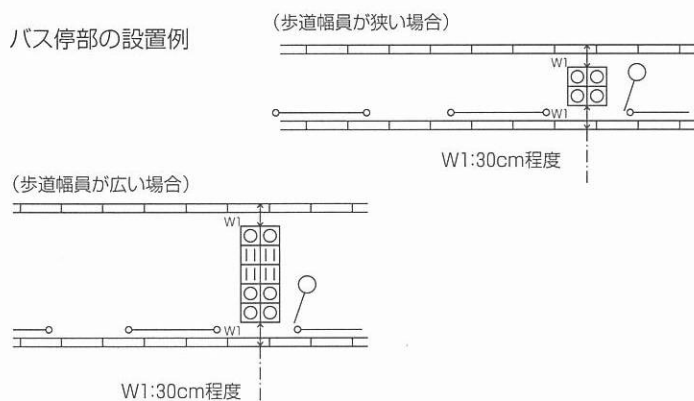
(地下横断歩道の昇降部の設置例)



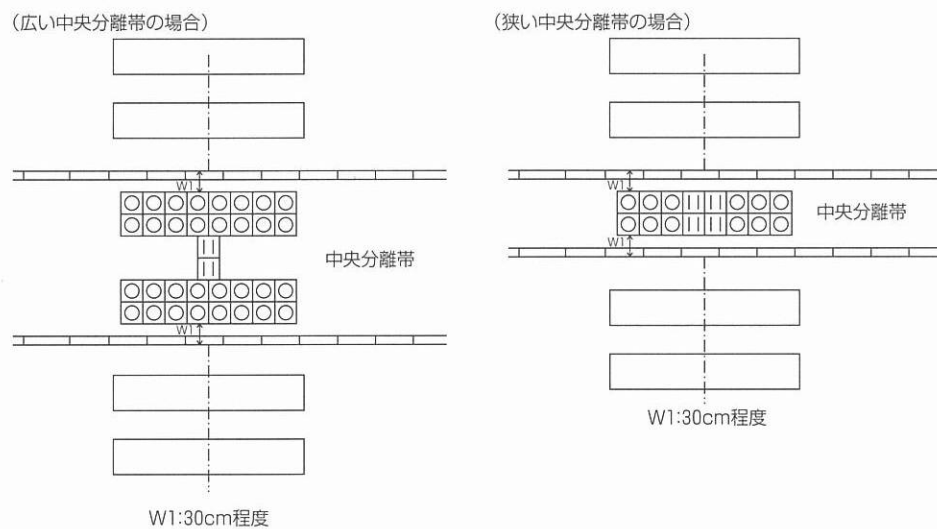
- 凡例
- 印：整備基準に定めるもの
 - ◇印：目標となる基準に定めるもの
 - 無印：整備基準、目標となる基準には示されていない標準寸法例、及び配慮事項

視覚障害者誘導用ブロックの整備例

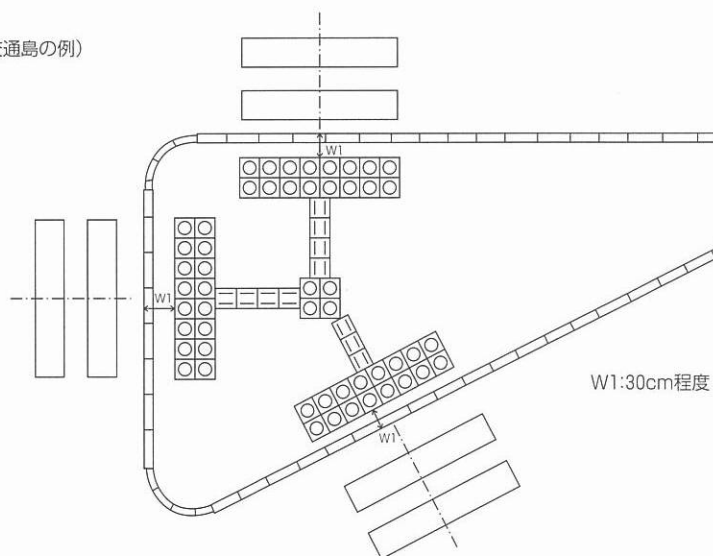
バス停部の設置例



中央分離帯の設置例



(交通島の例)

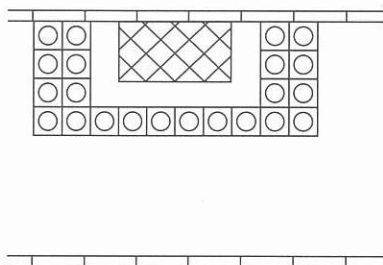


- 凡例
- 印：整備基準に定めるもの
 - ◇印：目標となる基準に定めるもの
 - 無印：整備基準、目標となる基準には示されていない標準寸法例，及び配慮事項

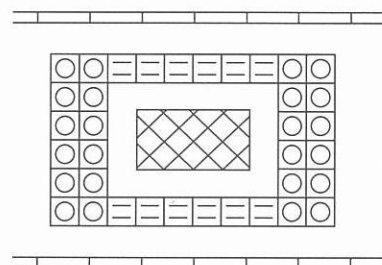
視覚障害者誘導用ブロックの整備例

(歩道幅員が広い場合)

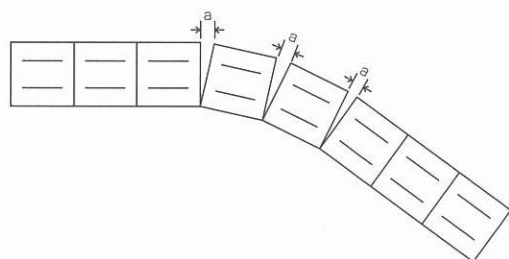
(a) 障害物を囲んだ例



(b) 歩行経路を案内した例



屈折部の設置例



a:10cm以下とすることが望ましい

- 凡例
- 印：整備基準に定めるもの
 - ◇印：目標となる基準に定めるもの
 - 無印：整備基準、目標となる基準には示されていない標準寸法例、及び配慮事項